

独立行政法人評価委員会 資源分科会石油天然ガス・金属鉱物資源機構部会（第24回）

議事録

日時：平成22年7月1日（木曜日）14：00～16：00

場所：経済産業省別館11階 1120共用会議室

出席者

森田部会長、浦辺委員、梅津委員、橘川委員、小西委員、小山委員

（欠席：木村委員、永田委員）

議題

1. 平成21年度財務諸表
2. 平成21年度業務実績評価

○森田部会長

それでは、定刻となりましたので、経済産業省独立行政法人評価委員会第24回石油天然ガス・金属鉱物資源機構部会を開催します。

なお、本日、木村資源・燃料部長は所用のため少しおくれて来ます。

それでは、本日の議題に入る前に、部会の委員の変更と配付資料の確認を事務局よりお願いします。

○茂木燃料政策企画室長

それでは、部会の資料の確認と、最初に委員の変更について報告申し上げます。資料に委員の名簿が入っていると思いますが、部会の委員の変更がございましたので報告申し上げます。

高田委員にかわりまして、永田理トヨタ自動車株式会社常務役員が新たに委員になっております。それから、森本委員に代わりまして、木村滋電気事業連合会副会長に委員に御就任いただいております。残念ながら、本日は御両名とも御都合がつかず御欠席でいらっしゃいます。

続きまして資料の確認をさせていただきます。席に配付しておりますが、まず資料1、こちらの冊子でございますが、平成21年度財務諸表(案)がございます。それから、参考資料1として第二期中期目標。7月1日、本日付で変更後の第二期中期目標でございます。それから、参考資料2、第二期中期計画。これも本日付で変更後の第二期中期計画でございます。それから、参考資料3として業務方法書を添付しております。

資料2につきましては後ほどお配りいたします。

以下、資料に不足等がございましたら事務局までお申し出ください。

○森田部会長

それでは、本日の議題に入りたいと思います。議題は、そこに書いてありますように、平成21年度財務諸表、それから平成21年度業務実績評価となっております。

最初に第1議題であります平成21年度財務諸表について、JOGMECから説明をお願いします。

○星経理部長

経理部長の星でございます。1点目の議題の関係で御説明申し上げます。

財務諸表につきましては、細かい資料ですが、先ほど御確認いただいたファイルに関連資料とともに、「平成21年度財務諸表(案)」として提出させていただきました。

なお、内容につきましては、前回、6月15日の当部会において、平成21年度財務諸表等のポイントで説明させていただきましたが、その内容と全く変更点がないということをお報告いたしまして、簡単ですが私の説明といたしたいと思っております。

以上です。

○森田部会長

ありがとうございます。

それでは、JOGMECの監事から監査報告を。

○松崎監事

監事の松崎でございます。平成21事業年度の監査の方法及び主要な監査内容等につきましては、6月15日に開催されました当部会において御説明させていただきましたので、本日は監査結果について御報告申し上げます。

お手元の資料の最初に6月25日に理事長に提出いたしました監査報告書のコピーがございますので、「2. 監査結果に対する監事の意見」のところをご覧いただきたいと思っております。

御報告いたします。

機構業務の執行は、法令に従い適法に行われているものと認めます。

財務諸表は、機構会計規程、独立行政法人会計基準及び我が国において一般に公正妥当と認められる会計の基準に準拠して作成されており、適正に表示しているものと認めます。

事業報告書は、機構の業務運営の状況を正しく示しているものと認めます。

決算報告書は、機構の予算の区分に従って決算の状況を正しく示しているものと認めます。

会計監査人である新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は、相当であると認めます。

以上でございます。

○森田部会長

ありがとうございます。

なお、財務諸表については、経済産業大臣が承認するに当たって独立行政法人評価委員会の意見を聞かなければならないことになっておりますので、ただいまの説明に関して何か御意見、質問がありましたらお願いします。

よろしいでしょうか。

それでは、財務諸表については部会として了承していただいたと思ってよろしいでしょうか。

それでは、議題にはありませんが、前回の部会で審議いたしました中期計画の変更について御報告をお願いします。

○茂木燃料政策企画室長

前回の部会の中で、中期計画の変更のうち、石油ガス備蓄基地の建設部分について調整中ということで御提示させていただいておりましたが、その後、財務省と協議を行い、最終的に、本日お配りしております参考資料2の9ページ目をご覧いただきたいのですが、9ページの(4)に書いてありますような形で成案を得ております。

内容としては、(4)の下線について、波方・倉敷基地については、それぞれ平成22年度、24年度までに建設工事を完了となっていたところ、今回、「完成することとしていたが、波方基地については、工事遅延に伴い完成期限を24年度に延期する」ということで、工期を24年度に延期するという記述を盛り込み、一方、費用の一層の合理化を図るという視点をポツの三つ目に追加することで成案を得たところであります。この点について御報告申し上げます。

これに関連しまして、JOGMECの河野理事長から一言御報告をお願いしたいと思っております。

○河野理事長

ただいま波方基地建設の完工時期を平成22年度から24年度に延長するという中期計画の変更について御報告がございましたが、前回、6月15日の部会の中で、LP基地の建設工事について現状を報告いたしておりますが、今回、中期計画の変更が確定したことを受

けて、少しお時間をいただいて私どもの対応状況について簡単に御報告させていただきたいと思っております。

過去の話になりますが、波方基地の堅坑金属配管のさびを確認したのが平成19年の9月でございます。腐食の原因の調査、補修のために配管とサポート架構の引き抜きを決定したのが平成20年の2月でございます。引き抜いた配管などの腐食原因について原因究明をいたしました。その結果、今回発生したさびには、すき間腐食と孔食の2種類があることが明らかになり、前者については比較的よく知られた腐食であること、他方、後者については、塩水環境のほか、溶接部の偏析による腐食性の低下が加わるなど、複数の要因が重なったものであるという報告を専門家から受けております。

これらを踏まえて、対応策の策定は、施工者であります設備JVの提案を待つということではなく、JOGMEC自身に設置した堅坑金属配管小委員会で精力的に検討いたしまして、その結果、腐食防止策としてコーティングと電気防食、さらに堅坑内の湧水低減工事からなる対策を平成21年8月に決定いたしました。このうちコーティングと電気防食につきましては、倉敷の堅坑金属配管にも採用いたしました。現在、両基地ではこの対策に沿って工事を実施している状況でございます。

さらに、設備ジョイントベンチャーとの間での費用分担にかかわる協議に入りました。工事費の支払いを確定いたしませんと、どこまで私どもが支払う、どこまでがJVの責任であるということをはっきりいたしませんと、一切の支払いができないことになりかねませんので、22年度の工事の中断を招きかねないという判断がありましたので、これを先行いたしました。協議の結果合意に至っておりますことは、前回の機構部会の報告の中でも触れさせていただいたところでございます。

具体的な費用分担の考え方ですが、予見可能であったすき間腐食の発生に至ったこと、及び腐食の確認が遅れたことなどについて、設備JVの負担に帰すべき事項がある。一方、孔食については、このような短期間での進行の予見は困難であったことも総合的に勘案いたしまして、腐食の補修費用の全額及び工期延伸による増加費用の一部については施工者に負担を求めることにいたしました。なお、この内容については法律事務所の見解を十分徴したものでございます。

一方、本件全般に関するJOGMECの管理や判断の適切性につきましては、これまで述べた直接的な対策とは別に、十分な検討がなされなければならないと考えてまいりました。これについては私から副理事長に取りまとめを指示いたしまして、詳細設計時期、設

備 J V への堅坑の引き渡し時期及び金属配管の据え付け時期の各段階について、何が問題であったのか検討を実施しております。

この検討は、設計段階における配管素材の選定にまでさかのぼるものでございまして、相応の時間を要する作業ではありますが、ようやくレポートが完成しつつあり、現在は第三者の専門家に内容の最終確認をお願いしている段階でありますので、残念ながら前回と今回の機構部会において皆様に御報告するところまで至っておりません。

しかしながら、平成 20 年度、21 年度に逐次状況を御報告させていただきまして、平成 20 年度の私どもの実績評価においてはこの問題が厳しく評価され、J O G M E C 全体としては A 評価をいただきましたが、資源備蓄面におきましては、積極的要因があるものの、本件が影響して B という評価をいただいております。したがって、この評価を重く受けとめるとともに、前述の検討結果をもとに、本プロジェクトの関係幹部の賞与等における業績考課において適切な措置を講ずることを考えておりますので、このことをお伝えさせていただきます。そして、次回に上記の検討結果と措置の内容を改めて正式に御報告させていただきます。そして、次回に上記の検討結果と措置の内容を改めて正式に御報告させていただきます。そして、次回に上記の検討結果と措置の内容を改めて正式に御報告させていただきます。

以上です。

○森田部会長

ありがとうございました。

本件につきまして、委員の皆様から御意見・質問を承りたいと思います。

浦辺さん。

○浦辺委員

ただいまの説明ではよくわからないところがあるのですが、波方のものが倉敷に生かされた、これは非常に良かったと思いますが、検討結果がアプライされて、できるのが 24 年 3 月になる原因がよくわからない。平成 19 年にほとんどの原因は解っている訳ですね。目に見える訳ですから。大きな原因としては、工期が延びてしまって状況が変わった、工期の延期に大きな原因があることは確かですし、そのときにいろいろなことが技術的に解っているわけですから、それから 5 年も経たないとできないというのは考えられないのではないかと。どのような説明をするにしても、これはちゃんとやらないとまずいのではないかとこの印象を受けます。

○森田部会長

今のコメントに対して、何かJOGMECから。

○河野理事長

一昨年でしたでしょうか、浦辺先生から、なぜこういうことになったのかという御指摘があったと思います。そのときもちょっとお話をいたしました、2年前に私が引き受けましたとき、配管の引き抜きが決定された直後でありました。その段階から、まず原因究明ということで、腐食の原因を、主に2種類あることがわかったわけですが、それを明確にして、非常に慎重に専門家の意見をお聞きしながら対応策を検討いたしまして、その策定までかなりの時間を要したのは事実でございます。

それを受けて対応策の実施ということで今日まで参りましたが、その間、私は担当の者には対応策の検討に全力を注いでもらいたいということで対応してまいりました。昨年、概ねそれがまとまりまして、次の大きな課題は施工業者との間の費用分担でございまして、先ほど申し上げたように、これを先行させて決着いたしませんと工事が途中でとまってしまうことになりかねない。そうするとまた工期が延期するということで、それを優先いたしました。

外側からの整理を順番に進めていく中で、最終的に私どもとしてどういう対応が必要かということにたどり着きましたが、これには非常に長い計画期間が介在しておりますので、どうしてもここまで時間がかかってしまったということでございます。

なお、工期につきましては、非常に粗っぽい言い方をいたしますと、波方については1回パイプを据え付けておりますので、この手間が2回になりますと20カ月の工期になります。それから、原因の究明と対策を講ずるということで27カ月を要しまして、それですべてが終わっているわけではないのですが、これを足しますと47カ月になるわけですが、今回延期をお願いしたのは27カ月でございまして、それなりの努力をして工期の延伸をできるだけ食いとめる努力をしてきたということは申し上げさせていただきたいと思っております。

○森田部会長

何かほかにもございますか。

よろしいでしょうか。

それでは、2番目の議題である平成21年度業務実績評価に入りますが、皆様に評価いただきました総合評価の取りまとめを行いたいと思います。

評価の取りまとめに当たってJOGMECの関係者の皆様に退室願わなければいけないのですが、その前に質問等がございましたら、最後の機会ですので、お願いしたいと思います。

何か質問はありませんか。

よろしいでしょうか。

それでは退室をお願いします。

[JOGMEC関係者退室]

○茂木燃料政策企画室長

ただいま資料2、21年度業務実績評価表を配付させていただいております。お手元に届きましたでしょうか。

○森田部会長

それでは、皆様からの評価コメントを踏まえて、平成21年度業務実績評価を行いたいと思います。

特にA評価とする場合には、機構の中期計画を超えたすぐれたパフォーマンスを実現していることとなっておりますので、その点も踏まえて議論をお願いします。

1ページ目をざっと見ますとおわかりのように、1番目はほとんどAですし、2番目もAというように、余りスプリットしていない状況ですので、それぞれの項についてさっとコメント願いますが、親委員会との関係で、私としては重点的に三つのことをやってほしいと思うのですが、一つは資源備蓄の問題で、ざっと見ますと平均はA評価ですので問題ないのですが、去年はB評価でしたので、何でA評価に変わったのか議論していただきたいということと、業務運営の効率化に関する事項と財務内容の事項ですが、業務運営のほうは大体A評価になっていまして、財務内容のほうはB評価になっています。去年は、この委員会では両方ともAでした。しかし親委員会で両方とも覆されてBになりました。事務局がおかしいと努力してくださって、財務内容のほうは最終的にはAになりました。去年は下の二つはAとBではなくて、BとAだったわけです。それが今年は逆転してAとB

になりますので、その辺も討論したいと思います。

最初に、ざっとですが、石油開発と金属開発はおおむねAですので、これはこのままでよろしいでしょうか。何かコメントがありましたらお願いします。なければ飛ばします。

それでは、3番目の資源備蓄。これもおおむねAで、よろしいでしょうか。Bの方が3人いますが。

○橋川委員

私はBですが、先ほど浦辺さんが言われた論点が気になるからです。国民的に対する説明ということからいくと、波方の問題はまだ完璧にクリアになっていないと思いますので、他の備蓄はAで問題ないと思いますが、波方を考えるとBと私は判断しました。これでいいのかということの問題提起したいと思います。

○森田部会長

浦辺さん。

○浦辺委員

関連してですが、波方の問題は資源備蓄に入るのか、石油開発に入るのか。こちらですか。

○茂木燃料政策企画室長

はい。資源備蓄です。

○森田部会長

何か、それ以外に。

私はAですが、なぜかという、例えばメキシコ湾の流出問題のように、備蓄をやっているときに汚染があったら途端にひどいことになってしまうのに、少なくとも備蓄の最中にそういうことは見られなくて、かなり安全操業をやっていた。それから、漏洩も全くなかった。波方のことはありますが、そういうことが一切なかったというのは大事ではないか。それで、備蓄は問題がなかったというところで私はAにしたのですが。

どうでしょうか。

○小山委員

私はAにしたのですが、それは、先生方がおっしゃったとおり波方の問題は確かに重要な問題で、考慮しなければいけないと思いますが、昨年度から大きく変わっていない。変わっていないこと自体が問題だという考えもありますが、減点・加点という意味でいくと、私はそんなに変わっていないと思います。かつ、そのほかの要素で、例えば国際的な備蓄に関する協力は具体的な進展があったと思っているのと、金属に関する備蓄についても、ある意味、進展があった。その二つのプラスの要素と波方の問題を相殺して考えて、私は昨年と同じ評価にしました。

○森田部会長

ありがとうございます。

あと二人の方。

小西さん。

○小西委員

波方はB、それ以外の全体については良好でA、この大づかみの認識は私も同じでして、皆さんおおむね共通するかなという気がしております。波方については、現状がどうかであるかということと、今回は21年度の業務がどうかということですので、波方について21年度、単年度でどう対処されたか、できたか、これはJOGMECに御質問することかもしれませんが、その部分で評価すると、やはりBなのか、それともB+とかAでいいのか、専門の分野の先生方がどう思っているかということが私は気になっているのですが。単年度の対処がどうであったかということです。

○岡村石油流通課企画官

技術的なことは私自身にわかるわけではございませんが、先ほど河野理事長が御発言されておりましたように、工期をいかに短縮していくかということのを至上命題として着々とお仕事を進めてこられたということで、工事そのものは立て直した計画に沿って円滑に進んだものと私は理解しております。

○森田部会長

梅津さん、何かございますか。

○梅津委員

例によってAなのかBなのかという感覚的な問題が非常に大きいのですが、この難しさがあったということと、備蓄基地の建設でトラブルはあったにしても、正常に動くように努力はしておられるということで、へこみをカバーして平らにしたという印象を受けている。

もう一つ、工期の間の努力もさることながら、腐食の問題というのは材料がそういう環境にある限り常につきまとう問題で、その場での経験を今後の監視体制をいかにきちんとするかという方向に積み上げてほしいとコメントのところに入れてしまったのですが、単年度でいくと努力しておられたということで、今後もっとそれを積み上げていってほしいという希望があるという感じで、全体としては、備蓄のところはAでよろしいのではないかな。

○森田部会長

そうすると、多数決ですと3対2対0.5。一人が真ん中。

どうでしょう。Aでよろしいでしょうか。

○浦川委員

私、まだコメントしていなかったのですが、後ろのほうの資料を見ても、波方の問題というのはCが二つもあって、あとはBで、21年度の対策としては非常に遅れている。問題は2年も前にわかっていたのに、もちろんネゴシエーションの問題は私は全くわからないことですが、19年の時点で計画全体がおくれていた。波方のほうが先に着手していて、倉敷のように自然相手の問題はなかったわけで、21年でまた延ばそうと決められたのはわかりますが、それでいつもどおりというのは、国民感情としてはあり得ないのではないかな。もともとは、既に使われてしかるべき時期ですね。

だから、ほかのところは全部Aだけれども、これは僕はCか、むしろDかもしれないと思っていて、足し算するとBでしょうがないのではないかな。これをAにしてしまうと、B

にするものは残っていないと思っています。

○森田部会長

梅津さんと小山さんと私がAで、小西さんは0.5だからAとBの中間で、橘川さんと浦辺さんがBで、どうしましょう。Aの人で覆る人はいますか。

よろしいですか。

それではゴーアヘッドで平均的にAにします。

○小西委員

私どもが作成した総合評価シートのフォーマットを参考に見ているのですが、例えば今の備蓄については総合Aとして、評価コメントのところで「波方については」というようなコメントの出しようはありますか。

○森田部会長

最終のまとめるものにはそういうことは載りますよ。 それでよろしいでしょうか。

○小西委員

はい。

○森田部会長

それでは、次の鉾害防止支援に入りますが、Aの人が多い傾向にありますが、多数決では半々ぐらいになると思いますから、どうしましょう。

梅津さん。

○梅津委員

つい最近まで、鉾害防止支援というのはマイナスポイントを最初からしょっているというので、継子扱いだったと思います。ちゃんと動いていても、何だよという感じだったのですが、活動の中で今までの経験を外国に持っていったり、いろいろなものをほかの領域でポジティブな財産として活用し始めて、そういう活動が見られるようになってきたというのは非常によかったのではないかと。今までは、崩れかけたのを何とかしました、倒れた

のを何とかしただけで、金食い虫という印象だったのですが、間近なところできちんとやっているのは現在のところ日本だけ、日本が突出している技術だと個人的には評価しているのですが、そういう活動を新しくつけ加えて動き始めたことに対しては、全体としてAの評価、無難にやったというよりも、前に進んだよという評価をしているわけです。

○森田部会長

ありがとうございます。

皆さんお願いします。これは3人Bがありますので。

○橘川委員

私は実はBをつけたのですが、やや保守的に考えたのは、親委員会、森田さんと私は経験があるのですが、突出していないとAをつけてはいけないということで、無難にやっているだけだと厳しいので、そういう観点からするとBなのですが、ただし、前回冒頭に言いましたが、仕分けという新しい要素が入りまして、去年がAだったのをBにするというのは一種のメッセージなので、私はBをつけましたが、多数の人がAならAで構わないのではないかという気がいたします。

○森田部会長

どうでしょう。

○浦辺委員

私はB+をつけたのですが、一人だけだからわかってしまうのですが、資源外交をする上でこういうものが幾つかの国で大変高く評価されているという意味ではAだけれども、いつもビジネス・アズ・ユージュアルでやって、それがスタートラインで、何か変なことがあったらめっちゃくちゃ怒られるというものはなかなかAがつけにくいから、気持ちとしてはB+なのですが、森田さんが上で説明できるというなら、ぜひAにしていきたいと思います。

○森田部会長

私は説明できますよ。なぜかというと、私は外国に25年間住んで、日本で25年間、半々

ぐらい住んでいたのですが、日本人の欠点がわかったわけです。それは、日本人は平均的に貧乏ですので、公害問題とか、何か問題があるとめっちゃめっちゃにたたく。うちの近所もそうですが、どこかが工事をしていて、自分の家がちょっとでもほこりをかぶると損害賠償金を要求するぐらいです。近所同士でも。

鉱害問題は最近出ていないですよ。これはすばらしい。AA+だ。新聞に1行も取り上げられなかったというのはすばらしい業績だと思います。

それでは、これは平均がAですから、Aでいいですね。

問題はあと二つで、業務運営の効率化に関する事項ですが、ここは大体の人がAですからAでよさそうに思いますが、去年もこれに近い現象が起こったのですが、親委員会でBに落とされてしまったわけです。なぜかといいますと、二つ大きな原因がありまして、ラスパイレス指数が百二十幾つと、ちょっと高いわけです。それは、大学出が多いし、修士・博士が沢山いますから、学歴を考慮すれば高くなるのは当然ですが、学歴を考慮しても平均より3ポイント、4ポイント多いというところが指摘されたのと、もう一つ、競争入札が少なくて随意契約が2番か3番、すごく高いわけです。もちろん将来どんどん減らす計画はあって、一生懸命ディフェンスしたのだけれども、Bに落とされました。

でも、皆さんが、そんなのおかしいよ、絶対にAだよと言ってくだされば、この記録のようにAになるのですが、皆さん意見を言っていたきたいのですが、親委員会は不当にBに落としたのか、皆さんのAが正しいのか。

親委員会は、業務運営とかはなるべくBに落とそうとするわけです。ちょっと欠陥があると、その1点を取り上げて落としてしまえ。ですから、その欠陥が今年は十分直っているかどうか。随意契約はことしも多いですね。でも来年度はぐっと減らすように1月に決定しましたから、来年は絶対落ちるのですが、それは今年分ではないではないかと言われてたらどうしましょう。

それ以外に身を削っているいろいろやっているところがたくさんありますから、そちらを強調すれば。一番大きなところは、経費削減とか、トータルの人件費をかなり落としたということがラスパイレス指数より大事だと思いますが。

小山さん。

○小山委員

私はぎりぎりのところでAというバランスだったのですが、森田先生からお話があった、

学歴とかを考えた上でも高いかどうかという親委員会の指摘があった点、確かにそのとおりなのかもしれないですが、私が、評価をするときに何を基準にして考えるのかという、前回の部会でも質問しお答え頂いたとおり、中期目標に対して量なり質が凌駕しているのかということが大事なところだと思います。その観点で言うならば、中期目標として認められているものに対してそれなりの削減ができていたというところでAの評価をしています。

そもそも中期目標がどうなのか、という話が出てくるのであれば、視点が変えられているような感じがして、あくまでもこの部会で頼まれたのは、中期目標に対してJOGMECがどうしたのか、ということではないかと考えております。22年度はもっと頑張りますというのは通じないだろうと思うので、21年度の中で中期目標に対してどれだけやったのかで考えたということではないでしょうか。

○森田部会長

橘川さん、お願いします。

○橘川委員

僕も小山さんの御意見とほとんど同じですが、一般管理費のポイントは、効率化目標を達成したかどうかということと、人件費の削減の目標を達成したかどうかだと思いますが、それぞれ超過達成していて、特に人件費は、17年度比で5%という目標なのに、17.2%達成しているのは、Aに値すると思います。

ラスパイレス指数の話は、人件費を達成する一つの要素でありまして、最終的な人件費が超過達成されているわけですから、大きく言えば問題ない。しかも、ラスパイレス指数自体も1.1ポイントこの1年間で改善されているわけですから、論理的にはかなり強いものがあるのではないかと。

随意契約についても、実行するのは今年度ですが、既に発表されているわけですから、方向性は明確に出ているので、業務運営に関してのAというのは、かなりクリアに主張できるのではないかと思います。

○森田部会長

浦辺さん。

○浦辺委員

私がB+をつけたのは、最後の二つの項目に関しては横並びで見られてしまうので、なかなか難しいかなと思って、Aでもいいと思ったのですが、B+に下げたわけです。

今度は人件費の問題もあるし、いいわけですが、B+になっている理由の一つは随意契約の問題です。資源に係わる業務は、属地的な、この場所でないと資源がないとか、人間だけでは解決できない問題が出てきますし、もう一つは、ナショナルセキュリティーにかかわる問題がたくさん出てくるわけですね。備蓄の問題、鉱害防止の問題、資源外交の問題、その他、ナショナルセキュリティーの問題にかかわるものまで全部（一般競争入札というように）オープンにしなければいけないという仕組みは、必ずしも全体合理性につながらないのではないかな。だから、目標が余り達成されていないと一般的に言うのではなくて、ただそこら辺で買ってくるというものではないので、ちゃんと分けて達成率みたいなものを目標にしない限り。

例えば石油備蓄の管理を任せる。これは応募された方が少ないというお話でしたが、それは国民にとってはラッキーなことで、経験もない人がやって大変なことになると非常に困る。それから、これまで訓練とかをよくやっておられるということが書いてあります。それは高い評価なわけですが、業者が代わると、その訓練はどこかに行ってしまうわけです。矛盾したことを要求されているので、はっきり分けて、これに関してはやるべきではないというメッセージをつければ、当然Aになると理解しています。

○小山委員

もう1点ですが、ほかの独立行政法人との比較というか、親委員会るときにどんな議論になったのかお伺いしたいのですが、石油ガスの場合は国際的な産業との競争もあるという状況で、意見の中にも書かれていたと思いますが、端的に言えば、より高い収入が得られるところに人材が移るということが当然ある。そういうことが他の独立行政法人の場合は起こらないと考えてシンプルにコストを下げられるということなのか、JOGMECの場合、人材の流動があり得るところでそれをやっていくということで、しかも、国際的な水準でいけば石油ガス産業の給与体系はかなり高いだろうと思いますので、その辺は親委員会で議論の俎上には乗らないのでしょうか。

○森田部会長

乗らないですね。というのは、石油業界はかなり特殊で、あとの10は全部、日本の業界が相手ですから。

大体、資源というのはかなり特殊で、日本の経済と逆向きに、片方が悪いときに片方がよくなっているのですが、親委員会ではそういうことまでは議論してくれませんね。

梅津さん。

○梅津委員

いろいろな経費を節減していくというのは必要ですが、人件費の場合、仕事に特殊性がある、しかも国内だけでやっているのではなくて、外国と一緒にやる。そのとき、片仮名的にいうとグローバルスタンダード、表現がうまくなかったらお許しいただきたいのですが、一緒に仕事をする外国の人たちとのバランスの問題というのも入れておかなければならない大きな事項だろうと思います。

日本のように、減らせばいいということになってくるとバランスが大きく崩れてしまうというのがあると思うので、どう対応していくか、これから真剣に考えなければいけない。スタンダードをどこに置いていくかということが大きなポイントだと思います。そういう意味では、JOGMECは非常に努力しておられて、実際に仕事をしていらっしゃる方がつらい思いをしていらっしゃるのではないかなと思います。

それから、随意契約が、件数でいくか金額でいくかで随分話が違ふと思うので、非常に金額の大きい項目については、責任も大きいし、緊急の場合ということまで担保しなければならないので、手を挙げたところにぼんというわけにはいかないだろう。そういうものをどういうふうにもこの中に入れてシステムを変えていくかというのが非常に重要だと思います。その意味では、制度自体を変えるというはっきりした方針を出されたのは非常にいいことだろうと思います。

○森田部会長

よろしいでしょうか。

それでは、平均ではAになっていますから、業務運営もAにします。

次に財務内容の改善ですが、ことしはBが多くて、去年は平均的にはAになったわけです。しかし親委員会でBに落とされた。

確かに、トータルの損益計算書だとマイナスになっていたわけです。探鉱出資の半額が評価損として落とされていたので、マイナスがかなり去年は多かったのですが、他のところを見たら全部プラスだったので、リスクマネーが大きいときにはマイナスが大きくても石油業界では当たり前だよ、かえって健全だよという評価でAだったわけです。

ことしは、一つの評価損が、たしか三井だと思いますが、マイナス三十何億円ぐらいになって、36 億円ですか、それで皆さんBにしたと思いますが、これでよろしいでしょうか。

赤字としては去年より少ないです。去年のほうがもっと多かった。ことしはプラス 15 億円あるのだけれども、マイナスが 41 億円ぐらいで、二十何億円のマイナス。それでBにしましたが、どうでしょう。Aにしようというのがありましたら。

○梅津委員

Aにしようというのではないのですが、私は評価無しになっている。JOGMECがいかに努力してもだめな部分が入っているのではないかというのが私の感じで、JOGMECが努力すればするほど悪い方向に数字が出てきてしまうと思う。そういう状況のところでは評価をどういうふうにするのかというのは、考えておかなければいけないのではないかと思います。というので「-」を入れてしまったわけです。はっきり言うと、スタンダードをどこに設定して、どういう見方をするのが本来か、去年わからなくなって、今年、依然として解らないというのが正直なところです。

それからもう一つ、鉱山の開発、資源の開発というのは、やれば 100%オーケーになるものではない。技術的な問題とか、政情が変わってしまったとか、ひどい場合にはマーケットがガラリと変わったり、ニーズが変わってしまったというファクターが全部入ってくる。その結果、やりかけたけど、ここで打ち切りにしますという終結が出てくると思います。そういうリスクを常に持っている仕事だということをどうこの評価の中に入れていくか、きちんと考えておかなければいけないと思います。

それから、期間的な問題で、単年度でプラスが出た、マイナスが出たというだけではなくて、プロジェクトとしては5年とか10年というスパンが必要だろうと思うので、そういうものを評価の中にどう加えていくか、私たちも考えなければいけないなということで、悩んだあげく、評価が今回はできませんという変なマークにしてしまったというのが正直なところです。

○森田部会長

どうでしょう、橘川さん。

○橘川委員

昨年、部会ではA、親委員会でBになって、それをもう一度事務局がひっくり返してAにしたときの一番のポイントは、リスクマネーを、201億だったと思いますが、出資して、100億自動的に赤が立つ。それを自分の努力で半分に減らしていったところをどう見るかという話だったと思います。

この項目は今のポイントがポイントになると思いますので、それで考えると、三井の話もありますが、ことしは201億が102億になっている。リスクマネーの供給の額自体が半減しているわけです。いろいろな事情で減ってしまうのはしょうがないと思いますが、去年初めて本格的に200億出したというところは新しいことだからAという評価になると思いますが、ことしは半減していますし、枠組み自体が動き出したのを着実に続けているということだと思いますので、そういうロジックから考えて私はBと言えるのではないかと思います。

それが基本的なこの項目についての話ですが、今まで全部Aできたわけです。全部Aというのは、親委員会からすると、この部会は何やっているのと見えにくいので、私は保守的にBをちりばめて、トータルAになるように考えたのですが、何でもかんでもAになってしまうというのは、Aの基準が甘いということにもつながると思います。そちらは違う理由ですが、前者が主要な理由で、ここはBのほうが良いのではないかと思います。

○森田部会長

ちなみに、去年の評価の統計を見ますと、全部で11法人ありまして、そのうち平均AになったのがJOGMECも含めて9法人、平均B評価だったのが2法人ありました。平均的にはみんなAだったわけです。

Aだと、点が非常に近いのですが、去年の場合は一番良かったのは製品評価技術基盤機構で、2番目がNEDOだった。一昨年場合は、1番が原子力安全機構で、あれだけ非難されていても1位だったわけです。だけど去年は、そんなことないだろう、あんなに新聞でたたかかれているのにと、みんなから意見があって、結局去年は5番目になりました。

○橘川委員

JOGMECは何番だったのですか。

○森田部会長

JOGMECは去年は3.7点で3番と4番を分かち合いました。3.51以上がAだから、ぎりぎり、というような結果です。

ただ、去年は親委員会で、Bでもない、Cに落とせと言った人も一人います。ですから怖いわけ。Bにしても、Cに落ちるかもしれない。

○小西委員

昨年の議論で、Cにというご意見は、財務内容の現状を見て、その時点での残高である財政状況进行评估するという観点になっているように思われます。

○森田部会長

そうでした。ルールではそう。

財務内容が損益計算書にマイナスがついて何でAなのかというのが大きな論点で、もちろんJOGMECは将来のお金をかけるのだから、他とは別だろうと説明しても、それでは何で財務諸表というのがあるんだと切り返されてしまって、石油業界では、過去のにはJOGMECはプラス側なので、リスクをかけて出資したときには余り考えに入れないわけです。でも去年は、そこを入れるとマイナスだろうというので、BまたはCに落とせと言われた。

最後には、それを抜いたら、他のところはずっとプラスなので、健全には間違いないというので、事務局は、リスクマネーを取られたら、これからうまく活用できなかつたら、JOGMECという機能を果たさないということでAに戻してくれましたので助かった。それでなければ平均点はBになりました。

それを踏まえて、どうぞ。

○小西委員

例え話で申し上げますが、仮にJOGMECが株式会社になって、株式を公開して証券市場に上場するとします。そうすると投資家がこの株を買いますか。証券市場にはいろい

るな業種のものがいっぱい入っているわけですから、そういう中で買いますかという、この財務内容では買いにくいですねということだと思います。一般論として。今、Cとおっしゃったのは、そういうニュアンスではないかと思います。それは一般論としては解るように思います。

ただ、リスクマネーを供給するというJOGMECの使命、それに対する達成度を評価したいということだと思うのですが、ここで書かれている基準の意味はちょっと置いておいて、記号だけで見ますと、5段階評価でBが中位の数だとすれば、私が申し上げた例え話でいけばCかDという趣旨だろうと思います。そこで改めて私どもの評価の基準を見てもみると、Bというのは概ね中期計画を達成したということ、Cは未達ないし重大な問題があるということですから、そういうふうを考えていくと、リスクマネー供給という使命にかかる事業を行って、半分評価減というやり方を加えてのこの結果ですから、予定どおりの数字という見方ができるのではないかと。そういうふうに考えますと、これは少なくともBで良いのかな。

これがAかということ、リスクマネーが回収されたというプラスアルファを生んでいるということであればAだろうし、AAだろうということだと思います。

今まで、他の国民に対するサービスという評価項目でAできていますから、概ね予定どおりだとすればみんなBなのかなという議論まで出てくるかもしれませんが、それはそれとして、一つ一つの仕事の内容を評価していますから、財務に関してはどうしても他法人との財政状況の比較という問題を頭に半分置きながら皆さんが受けとめるということが避けられないと思います。

繰り返しますが、予定どおりということでBなのかなと思います。

○森田部会長

今の御意見は説得力がありまして、そのままマイクロフォンにとって親委員会に。

○小西委員

ちょっとつけ加えますと、自己収入を確保しているという部分は努力されているし、着実に運用なさっている。あるいは資金調達の工夫をしている。そういうことではAだろうと思ってはいるのですが、結果の姿ということがどうしてもイメージされるので、こういう議論になるのかなと思いました。

○茂木燃料政策企画室長

御参考までに申し上げますが、財務の評価の一つの視点として、総務省の政策評価・独立行政法人評価委員会が「独立行政法人の業務の実績に関する評価の視点」という統一の視点を提示しております。その中で、全体を通して基本的な視点は、あくまでもその法人の業務の政策目的を踏まえて業績を評価するということが大前提として置かれた上で、財務状況については、例えば当期総利益とか総損失があった場合、これをどう評価するかということが書かれております。その中には、例えば当期総利益または当期総損失の発生要因の分析を行った上で、当該要因が法人の業務運営に問題等があることによるものかどうかを検証した上で、業務運営に問題があることが判明した場合には、その問題を踏まえて評価が行われると書いてあります。

確かに、昨年の親委員会の議論の中では、損失が立っていることをもって評価が低いのではないかという御指摘も出ていたのですが、こうした問題意識を踏まえると、損失をもって自動的に問題があるという整理ではないのではないかという感触は持っております。損失の要因が業務運営そのものに起因するものなのか、業務の性質に照らしてどう評価すべきかということを部会で評価しているわけですから、この点を主張することによって御納得いただくというのは一つの方法なのかなと思います。

○森田部会長

財務内容の改善に関する事項は、これ以外は覆りませんか。Aが2人で、Bが6人ですが、よろしいでしょうか。

それでは、平均的にはBですので、Bにしましょう。

そうしますと、全体的な評価は、最後の財務内容の改善に関する事項はBですが、あとは全部A。それでよろしいでしょうか。

評点の計算をしますと3.8です。よろしいでしょうか。

それでは、最後の結果を7月29日の親委員会に持っていきます。そのとき皆さんの御意見を覆されないように努力しますが、親委員会は10分ぐらい説明して、5分でみんなでたみかけてくるので、大変です。

今年は財務内容のところはBですが、これも色々と議論があるかもしれません。

○橋川委員

我慢して聞いていたのですが、親委員会というのは、有識者ということになっているけど、大半の人は個別の分野について知識があるわけではありません。ある分野については非常にわかっているのですが、それ以外のことはわかっていない人たちが意見を言うわけです。でも、それしか方法がないのです。したがって、自分の有識の部分はきちっと説明すれば、去年、リスクマネーの話は一度されているわけですから、同じ構造を話すわけですから、そこは自信を持って説明をされれば、いけると思います。

○森田部会長

わかりました。

それでは、これで評価は終わります。JOGMECの入室をお願いします。

[JOGMEC関係者入室]

○森田部会長

よろしいでしょうか。

それでは評価の結果を申し上げます。

上から順番に、まず国民に対して提供するサービスの石油開発と金属開発ですが、両方もAで、活発に活動していて、とてもすばらしい。中期目標以上に活発にやってくれましたから、A評価ということでした。

次に資源備蓄ですが、資源備蓄の難しいところは、きちとこなしてB評価となるという考えもありますが、安全で、例えばメキシコ湾の事故の様な漏洩事件を一度も出していない。あれだけ備蓄基地があってもそういう事故は出していないし、安全面もかなりすぐれているというので、A評価としました。

次に鉱害防止ですが、鉱害防止もとても難しいところですが、当たり前前に行っていてというところがあって、一生懸命やってもBというところがありますが、鉱害防止も全然問題なくよくやったということで、Aとなりました。

次に業務運営の効率化に関する事項ですが、業務運営も非常に難しいところですが、少なくとも中期目標以上にやったではないか。いつも問題になっているのは、JOGMECの性質上、競争入札がそれほど多くない。それはわかるのですが、それでも目標を決めて

競争入札制度を取り入れているのではないかと。中期目標以上に達しているというので、今年
はAです。

次に財務内容ですが、財務内容も難しいところですが、結果的に言うとBでした。とい
いますのは、平均的にはよくやっているけれども、これはとても難しいところで、今年
評価損が生じてしまったのではないかと。ですから、中期目標は達しているけれども、Aにす
るには難しいところがありまして、Bとなりました。

そうしますと、総合評価では、財務内容以外は全部Aでしたので、3.8 となりまして、
総合評価ではAとなりました。それがこの委員会の結果です。

3.8 ですとかなり高いのですが、親委員会に行くことあるかもしれませんので、
私をもう1回教育してください。私としても財務とかその辺を攻められると、細かい数字
は、部外者ですので、わかりにくいところがありまして、それでもよどみなく質問に返し
ていく必要があります。去年、Cにしてもいいという人が一人いまして、それをかなり言
われましたので、最後の二つに詳しい方が私を教育してください。業務運営の効率化に関
して、我々はAで、財務評価は、とてもよかったのだけれどもB以上は言えないだろう。
しかし、それ以下に絶対に落とされないように、私を教育してください。お願いします。

それでは、理事長、お願いします。

○河野理事長

長時間の御審議、まことにありがとうございました。また、Aという評価をいただきま
して、まことにありがとうございます。

今、それぞれの項目についてコメントをいただきましたが、私どもの活動ぶりの評価を
いただいたと同時に、こういう国際資源環境の中で頑張るよというお気持ちをいただ
いたのではないかと思いますので、役職員一同、これからさらに努力を重ねてまいりたい
と思っております。ありがとうございました。

○森田部会長

では、以上で本日予定しておりました議題は全部終了しましたので、最後に事務局より
今後のスケジュールについてお願いします。

○茂木燃料政策企画室長

事務局より説明申し上げます。

今後のスケジュールでございますが、ただいま森田部会長からもお話がございましたとおり、21年度の業務実績評価につきましては、経済産業省独立行政法人評価委員会、いわゆる親委員会において、本日の結果を報告いたしまして最終的な取りまとめを行います。これが7月29日、木曜日となっております。この場にJOGMECの評価結果を報告させていただきたいと思っております。

以上です。

○森田部会長

ありがとうございました。

それでは、7月29日に皆さんの意見を完全に守るように頑張ってきます。どうもありがとうございました。

——了——

問い合わせ先

資源エネルギー庁資源・燃料部政策課

電話：03-3501-2773

FAX：03-3580-8449